

わたしの妹

小 五

わたしには、ふた子の妹がいます。妹は、発達しよう害があります。そのため、人の話す事は、だいたい理解できませんが、上手に話すことはできません。でも、見た目は普通の女の子です。

妹は、一年生から特別支えん学校に通っています。毎日少しずつ言葉を覚え、話すようになり、成長してきます。ふだんの生活の事は、毎日の学習でたくさん出来るようになりました。

わたしは、家族といっしょによく

買い物に行きます。その時、妹は思い通りにならないと、大声でおこつてしまいます。そうすると、一せいに他の人たちが私たちの方を見ます。中には、わざわざ近くに来て、こちらを見ながらこそこそと話をしていく人もいます。

私は、なんだかとてもはずかしく、悲しい気持ちになってしまいました。でも、母や父、祖母が、

「何がはずかしいの。何も悪いことなんかしてないのだから、ぜんぜんはずかしいことはないよ。」
などと言ってくれたので、はずかさをわすれ、少し勇気も出てきました。

自分の気持ちを伝えられない妹が

かわいそうに思う事があります。わたしはずっと母のおなかの中にいる時から妹といっしょにいたので、妹の気持ちは何となくわかります。だから、妹がこまった時は、私が代わりに手伝いたいです。

わたしは妹が大好きです。特に、笑顔のかわいい妹が大好きです。妹はふ通の女の子、何もはずかしい事はないです。

母が、ノーマライゼーションとは、しょう害のある人が社会の中で他の人びとと同じように生活し、活動することが出来るようにする事、と教えてくれました。当たり前前の事です。が、妹たちしょう害のある人にとつては、とても大切な事だと思います。

た。

これからも、わたしたち家族はいろいろな所へ出かけ、たくさんのおこを体験し、いっしょに学んでいきたいです。

わたしは特別支えん学校のいろいろな行事に参加して、先生や、たくさんのおともたちの楽しそうな笑顔をたくさん見ってきました。わたしも、しょう害のある子どもたちを一人で、も多く笑顔にしたいです。だから、しょう来特別支えん学校の先生になって、しょう害のある子どもたちといっしょにがんばっていききたいです。

